

2025年2月19日

2024年度 第2回美容科教育課程編成委員会議事録

1. 開会日時 2025年2月18日(火) 13:00-14:30
2. 開催場所 埼玉県理容美容専門学校 地下多目的室
3. 出席者 学外 2名
欠席 2名 深山 裕孝、秋山 幸子

	氏名	所属
1	古川 聡	埼玉県美容業生活衛生同業組合 常任理事
2	柏木 恵	埼玉県美容業生活衛生同業組合 蕨支部長
3	増村 信雄	埼玉県理容美容専門学校 校長
4	千住 義祐	埼玉県理容美容専門学校 法人本部長
5	原田 怜	埼玉県理容美容専門学校 美容科教員

臨席 埼玉県美容業生活衛生同業組合理事長 高野 春夫

4. 学校長 開会挨拶 (増村校長)
5. 2025年度第2回・教育課程編成委員会の目的 (司会・千住課長)

【教育課程編成委員 目標の確認】

- ① 第一回での意見を踏まえて、それをどのように教育現場で活かしたかを本校教員より報告する
- ② 現状での問題点に対し、委員から職業人としての忌憚のない意見を伺い、また活発な意見交換を行う。

6. 現況報告 (美容科教員・教務主幹 原田 怜)

① 現在の在籍状況について

美容科	71期	2学年	101人	2年次退学	0人
	72期	1学年	121人	スタート(休学1人含む)	
				前期退学	5人・後期退学3人 休学2人

現在の在籍者数 合計 223 人 (240 人定員)

退学については、欠席が増えた後急に連絡が取れなくなり、確たる理由が不明のまま退学に至るケースが増えている。また、家庭環境に問題があるケースとして”立支援施設”から通学していたが「生活が成り立たない」ため休学した学生や、経済的に進学が不可能な状況にあっても入学してしまい、早期に進路変更を余儀なくされた学生があった。

② 学力の低下について

2 年生については、技術面ではここ 2～3 年の中では比較的良い仕上がりであり 2 月の実技試験の状況を見ても仕上がりは良いと感じる。

一方で、学科についてはかなり指導をしてもなかなか結果の出ない学生が散見される。

以前は実技が不得意でも学科は出来る、又は学科は出来なくても実技はうまいなど学生のバリエーションがあったが、最近では実技ができない学生は学科も不得意で、両方とも出来ない層というのが出現している。

1 年生については、比較的検定試験などにも前向きではあるものの、中間ゾーンが減少して、やはり下位の増加が顕著にある。

③ 後期の活動報告

前期にご意見をいただいた事を取り入れて、「他人に興味をもつ」という目的のためにグループ・ワークを取り入れた授業を増やしている。

1. リベラル・アーツ / 校外実習として県内・都内のフィールド・ワークや美術館・芸術鑑賞などグループで行動する活動を実施した。
2. ご提案いただいた「名刺交換会」は今期の実施ができなかったが、令和 7 年度の後期に取り入れたいと計画している。
3. 「学科かるた」を作り、楽しみながらグループで学ぶ機会を設けた。
4. 同じく提案のあった「笑顔コンテスト」は数字を出して得点を競うことにかえって目的が果たせないのではという意見もあり、感謝罪において「サンキュー・カード」の形をとり日頃の感謝を伝え合うスタイルでコミュニケーション・ツールとして実施した。

司会 以上の報告について委員の皆さんからご質問又は忌憚のない意見を伺いたい。

古川 「サンキュー・カード」は学生間だけですか？

原田 誰にでも OK としました。模擬サロンにも置きましたが、内々で楽しんだというのが実情です。

古川 企業では、ご両親に感謝を伝えるという企画で実施しているところもありますね。「名刺交換会」は来期にという事ですがどのように？

原田 「名刺交換会」のアイデアとしては今期もマナーの授業の一環として初めてはありますが、コミュニケーション能力の差異がありご提案いただいたように「得点化」して競うのは難しいと感じています。

古川 「名刺交換会」は自分から積極的に動いてコミュニティして、どれだけたくさん名刺を交換できたかを競うものですが、ジャッジを学生にやらせるなど工夫して遊びにならないようにするのが良いと思います。

原田 入学後の早い段階でグループが固定しがちなことが、様々なトラブルの原因になると感じる。また、各種行事やイベントも新校舎に移転後は教員側の管理が優先されて、教員が計画した事を学生が唯々諾々となしているようにも感じる。学生が楽しむイベントをもう少し増やして「やらされてる感」を減らし、様々な取り組みの中で色々な人格と出会って成長に結び付けたい。

古川 学園祭などで「学校コイン」などを発行して売り上げを競ったり、競い合うこと、必死でやるのがあってもいいのではないか。

原田 中学・高校時代に「コロナ禍」のため学校イベントが経験できていない、また社会経験が希薄であると感じる。

古川 他人と共同で何かを作るとか、やりとげるという経験が必要ではないか。学校で学ぶ延長線で「ワインド・リレー」とか協力してやるのがあってもいい。

千住 学校側が用意したイベントで、今問題になっている「コミュニケーション能力」を育てる、という目標を達成できるのかは悩ましいところです。

柏木 コミュニケーションというと、学校以前に家庭内でのコミュニケーションが取れていないとサロンの現場でも感じる。成人式の時に、着る本人と着物を揃えるお母さんとの間でコンセンサスがとれていないケースがある。家庭で会話が無く、それぞれが主張して折り合わない。着る本人は自分の気持ちを聞いて欲しいのに、頭ごなしに物事が進んでしまっていて置き去りにされている。

今の若い人とは距離感が難しい。

原田 小・中・高の学校の中で、そうしたコミュニケーション不全が起きている。

柏木 美容の仕事は接客業なので、コミュニケーションが取れないのでは業に向かないのではないか。

原田 職業観が変化しており、向いていなければ転職すればいいと親も本人も考えている。「転職が当たり前」の価値観なので我々と「常識」が異なることが多々ある。例えば「期日を守る」という能力が備わっていない。基本的な生活習慣がトレーニングされていない。遅刻欠席をしないのが基本だが、時間を管理するという意識が希薄である。

千住 ジェネレーション・ギャップを埋めるために、最近の卒業生と懇談して先生が学校生活などのフィードバックをもらってはどうか。

古川 若年層の OG、OB 会は良いと思う。

原田 現在 OG、OB には卒業生講話で来てもらっているが、どうしても「出来の良い」学生が対象になるので、むしろ学生には「失敗談」などを話してもらうのが良いかもしれない。

古川 年齢の近い先輩にクラスに入ってもらって、グループ・ディスカッションをすることも良い刺激になるのではないか。

原田 「イマドキ」の学生へのアプローチに悩むことが多いので参考になると思います。

7. 「業界として」学校への意見など

古川 やはり「イマドキ」の若者がつかみづらいのはサロンの現場でも悩みです。

原田 社会の職業観が大きく変化して、学生が希望する働き方が「フリーランス」で自由にやりたい指向になっている。お客様も「自分に合う人しかやりたくない」など SNS 情報に振り回されている

古川 そうした事へのデメリットもきちんと説明しないといけない。

原田 目先のことにしか興味が無く、将来という大きな視点をもたない学生が多い。将来設計のプランニングをやらせたら「今の事に必死でそんな先の事は考えられません」と言われることがある。

千住 他にご意見等がなければ、今回の委員会は以上で終了として、高野理事長から一言いただきたいと思います。

高野理事長

苦勞に価値を見出さない社会が到来したのだと思います。その中で、いわゆるエッセンシャル・ワーカーの必要性は変わらないと考えます。

また、難しい学生がふえたからと言って「寄り添いすぎ」も問題でしょう。いつのまにか学生にイニシアチブを奪われて「指導できない」学校になることも懸念されます。

今日は、ご多用の中で委員の皆様に参加いただき、活発な意見交換ができて有意義な会議となりました。

あらためて御礼申し上げます。

以上